

ピースマを通じて感じたこと～活動の薦め～

経済学部 経済学科4年 越川 智史

卒業要件単位を満たし就職活動も無事に終えた4年生の春、残りの学生生活をどう過ごそうか考えていた。サークルに所属していないし面白そうな授業もない。ゼミの卒論は3年の夏に提出している。本当にすることがなく暇を持て余していた時、突然高校時代の友達から飲みに誘われた。この飲み以降、私の残り少ない学生生活は暇なものから一気に充実したものに変わっていた。

彼は「Peace Smile」(通称ピースマ)。①世にある様々な諸問題を敏感に察知②まずは自分達で勉強③勉強して得た知識を周りに広める活動を行う、という学生有志団体のリーダーを務めている。その彼から自分たちのイベントに参加しないかと誘われた。イベントは「チャリチャリ」と言つて、みなとみらい周辺を自転車で漕ぎながらHIV/AIDSの啓発活動をするものであつた。私は過去にこのようないい活動に参加した経験がない。ニュースなど提出している。本当にすることがなく暇を持つていた時、突然高校時代の友達から飲みに誘われた。この飲み以降、私の残り少ない学生生活は暇なものから一気に充実したものに変わっていた。

今回初めて参加することにしたのはあまりにも時間を持て余していた、ということと、友達の高校時代を考えるとそのような活動をするとは思ってもいなかつたので、彼が一体どのような活動をしているのかに興味を持ったからである。友達には申し訳ないが参加の理由はこのようないい気持ちだった。それでも参加するからにはHIV/AIDSに関する知識を身につけて

辺を自転車で漕ぎながらHIV/AIDSの啓発活動をするものであつた。私は過去にこのようないい活動に参加した経験がない。ニュースなど

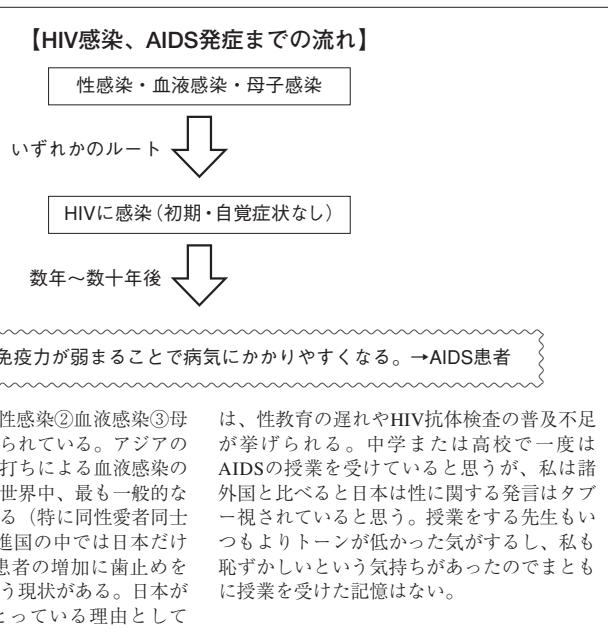
必要なもので、イベントに先駆けて行われた勉強会に出席した。

勉強会

知識の受け売りになるが、HIV/AIDSは私たちにとって身近な問題だと思うので勉強会で学んだことを紹介させてもらう。

HIVはヒト免疫不全ウイルス。AIDSは後天性免疫症候群の略称である。ややこしい名前はともかく、「人間の体内にHIVが入り込み、そのウイルスが原因で次第に免疫力が弱まり様々な病気にかかりてしまう」というのがHIV/AIDSの流れになるのだが、HIVが体内に入り様々な症状を発症するまでの人をHIV感染者、HIVによってすでに何らかの症

状を発症している人をAIDS患者という。HIVよりもAIDSという言葉を耳にすることが多いと思うが、「AIDSを予防する」というのは「HIVに感染しないようにする」ということなのである。



HIVの感染経路は①性感染②血液感染③母子感染、の三経路に限られている。アジアの途上国では注射の回し打ちによる血液感染の割合が比較的高いが、世界中、最も一般的な感染経路は性感染である（特に同性愛者同士の感染率が高い）。先進国の中では日本だけがHIV感染者・AIDS患者の増加に歯止めをかけられていないという現状がある。日本が他の先進国に遅れをとっている理由として

HIV感染者は特に20代、30代といった若者に多いので10代のうちにしっかりと教育を身につけることが感染防止に重要な役割を持つ。そのためにはHIV/AIDSが深刻な社会問題であると認識させるような内容にしていくべきではないだろうか。また、最近になつて検査を促すCMを見る機会が増えたが、これまでそのような検査を無料で受けられること自体知らなかつた人は多いと思う。HIV抗体検査普及の遅れは、気づかな

うちに感染した人間がまた誰かを感染させてしまう、という悲しいサイクルを引き起こし、感染者・患者の増加を招いてしまつた。そして、HIV感染者、AIDS患者に対する差別偏見が存在している・・・。

このようなことを勉強会で学んできたのだが、これを聞いた友達、そしてピースマのメンバーはとにかく熱かつた。タイのエイズホスピスへ赴き、途上国の現状を目の当たりにしてきたメンバーもいた。メンバーからはHIV/AIDSをこれ以上

ボートをしてくれる。みんなで助け合いながら活動を続けた結果、エイズに関する手作り冊子120部、コンドーム181部（エイズ予防財団提供）を配ることが出来た。

リーダー曰く、この結果はなかなかのものらしい。確かに私も嬉しい成果だと思った。しかし、私は悔しい気持ちでいっぱいだった。それは、自分は助けられてばかりでほとんど貢献出来なかつたからである。せっかく勉強会に参加し、

ポートをしてくれる。みんなで助け合いながら活動を続けた結果、エイズに関する手作り冊子120部、コンドーム181部（エイズ予防財団提供）を配ることが出来なかつた。自分の活動内容に納得がいかなかつたということと、今回の参加ではせっかく持つた知識が無駄になると思ったので、次回のチャリチャリにも参加させてもらうこととした。

△一度目のチャリチャリ



内容は前回と同じだが、私自身のやる気にかなりの差がある。イベント前の勉強会、今回も参加したが学ぶ立場としてではなく、知識を伝える立場（先生役）として参加した。前回得た知識を基に予防方法などを伝えつつ、直近のHIV/AIDS感染者・患者者数を示すことで

身近な病気であるということ、ピースマや私が本気で感染者を増やさたくないという思いを勉強会に来てくれた学生たちに伝えてイベントに望んだ。

快晴に恵まれたイベント当日、私は班の仲間3人と共に、ジャックモールとワールドボーテーズで啓発活動を行った。啓発前は前回同様、緊張していた。しかし、知識が以前より定着していることと、前回のように悔いを残すような活動はしたくないので、「無視されて

自らも勉強して得たHIV/AIDSの知識を、活動に不慣れであることや緊張のせいで十分に伝えることが出来なかつた。自分の活動内容に納得がいかなかつたということと、今回の参加ではせっかく持つた知識が無駄になると思ったので、次回のチャリチャリにも参加させさせてもらうこととした。

自らも勉強して得たHIV/AIDSの知識を、活動に不慣れであることや緊張のせいで十分に伝えることが出来なかつた。自分の活動内容に納得がいかなかつたということと、今回の参加ではせっかく持つた知識が無駄になると思ったので、次回のチャリチャリにも参加させさせてもらうこととした。

自らも勉強して得たHIV/AIDSの知識を、活動に不慣れであることや緊張のせいで十分に伝えることが出来なかつた。自分の活動内容に納得がいかなかつたこと、今回の参加ではせっかく持つた知識が無駄になると思ったので、次回のチャリチャリにも参加させさせてもらうこととした。

みんなで一日活動した結果、冊子175部、コンドーム245部を配することが出来た。この成果はこれまで三度のイベントの中で最大であった。全体の結果が良かつたこと、そして、自分も今のは知識を伝えられ、貢献出来たという思いがあつたので、私にとって非常に達成感のあるものとなつた。

みんなで一日活動した結果、冊子175部、コンドーム245部を配することが出来た。この成果はこれまで三度のイベントの中で最大であった。全体の結果が良かつたこと、そして、自分も今のは知識を伝えられ、貢献出来たという思いがあつたので、私にとって非常に達成感のあるものとなつた。

△活動の薦め

私は今年、HIV/AIDS啓発活動以外にも学校外での活動をいくつか経験してきた。そして、こうした活動をしているうちに一つの想いが生まれてきた。一つは「自分が変わった」と思うようになつたことである。私は元来面倒くさがりやであり、単独での行動を好む。何か特別な活動をするならば、その時間を自分の趣味の時間に費やしてきた。そんな私が今では趣味や睡眠の時間を削つてまで様々な活動に取り組



と貴重な経験になり自身の成長に繋がると思う。

「もう一つは「学生（若者）には行動力がある」ということである。「近頃の若い者は」と言われることが多い私たちの世代。しかし、そんな私たちも一人ひとり、何かしら社会に対する想いを持っているはずである。そうした想いを持つても一人で行動するのではなく勇気がいるが、同じ想いを持った者同士が集まり行動をすることとで、私たち若者も周囲に影響を与えることが出来る。もし、このように活動に従事する若者が増えていけば年長者から小言を言われることもなくなると思う。

私たち若者が社会を引っ張っていく時代はすぐ訪れる。その社会環境を、私たちの意見なしに今、最前線にいる方々に決められては困る。

私たちも、自分たちの想いを世の中に発していかなければならぬが、一人で行動をするのは辛い。どうか一度、共通の想いを持った人たと何かイベントに参加してみて欲しい。きっと

△参考文献

学生有志団体ピーススマイルブログ（左記URL）

<http://peace-smile-hkmrsy.cocolog-nifty.com/>

blog/cat8102860/index.html

HFW（ハンガーフリー・ワールド）HP

http://www.hungerfree.net/special3_1.html